

吉田 道也教授還暦祝賀論文集

<https://doi.org/10.15017/10701>

出版情報：法政研究. 39 (2/4), pp.1-5, 1973-06-30. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

吉田道也教授還曆祝賀論文集

還曆を祝して

謹んで本書を

吉田道也先生に

奉呈する。

昭和四十八年七月

執筆者一同



九州大学教授 吉田 道也 博士

教授は、明治四五年四月二日福岡県八女郡福島町（現八女市）に生まれ、福岡県立福岡中学校、福岡高等学校文科乙類を経て、昭和十二年三月東京帝国大学法学部法律学科を卒業された。直ちに、同大学大学院（旧制）に進まれ西洋法制史を専攻、その後同大学助手を経て、昭和二二年九州大学法文学部講師に就任、翌二三年同助教授、同二五年同教授に進まれ、法制史講座を担当、同四三年よりは西洋法制史講座を担当して今日に至っておられる。その間、九州大学評議員、同法学部長を歴任、大学行政に尽されたが、ことに教授にあつては、故金田平一郎教授のあとをうけて、九州文化史研究所の発展に尽瘁され、今日の同研究所の隆盛をもたらされた功績も見逃がすことはできない。また学内では法学部大学院指導教官として、大学院学生の育成に努められるとともに、学外にあつては昭和三十一年以来法制史学会理事として、後進の指導と学界の発展に貢献されておられる。

教授の学風はすこぶる堅実かつ実証的であり、その研究業績の大半を占める教会法史関係の諸論文は、すべて発表の都度学界の注目を集めてきた秀作であり、その業績は斯界の開拓者として学界に貢献するところはきわめて大きいものがあるといえよう。

還暦を迎えられた今日、教授はきわめて健康であり、日夜研究にいそしんでおられる。元来、大変な読書人であり、物識りでもあられる教授には今後ともわれわれ後進のご指導をお願いしてやまないものがあるが、同時に教授の一層のご健勝をお祈りする次第である。

吉田道也博士著書および主要論文目録

学術論文

「古カトリシズム」時代の司教叙任について	昭和一九年六月	国家学会雑誌五八卷四、五、六、七、八号
私有教会聖職者とフランク国王の立法	同 二四年三月	法政研究一六卷三一四合併号
中世教会裁判所の民事裁判権について	同 二五年三月	同 一七卷一―四合併号
「十分の一税」成立	同 二七年三月	同 一九卷四号
「十分の一税」権者	同 二八年九月	同 二〇卷二―四合併号
石本家略史	同 二九年一〇月	九州文化史研究所紀要三一四合併号
教会裁判所の民事裁判権の終末	同 二九年一〇月	法政研究二二卷一号
十分一税義務者と十分の一税の内容	同 三〇年三月	同 二二卷二―四合併号
法と宗教	同 三二年二月	別冊法律時報「法と社会」
教会保護権序説	同 三二年二月	九州大学法学部創立三十周年記念論文集「法と政治の研究」
教会刑事裁判権について	同 三四年三月	法政研究二五卷二―四合併号
国家的刑罰権と非国家的刑罰権について	同 三五年四月	刑罰と国家権力
神聖ローマ帝国における首長の構成メンバー（訳） ―連邦主義の問題によせて―	同 四六年九月	法政研究三八卷一号